

活用したい遺伝資源(2)

キイジョウロウホトトギス

1. 資源の分布・保全

1) 分布地域

日本の特産で、紀伊半島中南部の中山間地域に自生しています。

2) 自生地の環境

(1) 深山のやや湿った岩壁に垂れ下がるように生育し、下には清らかな河川が流れています。

(2) 霧が多く、空気中の湿度が高いところです。

(3) 山に囲まれ、日照時間が短いところです。

3) 自生地における生息状況

園芸採集や環境の変化により年々減少し、今では、開花株は、手の届くところにはほとんど無くなっています。また、環境庁および和歌山県のレッドデータブックでは、絶滅危惧Ⅱ類に指定され、保護が求められています。

2. 特性

1) 茎の長さ：40～80cm

2) 開花時期：9月下旬～10月中旬

3) 花の形態：花は鮮やかな黄色で、花被の長さ約4cm、外花被片の基部に距があります。上部の葉腋から一つの花を出し、斜め下向きに咲きます。

3. 増殖・栽培

増殖の方法には、実生、さし芽、株分けが

あります。一度に数多く増やすには実生が有効です。

極めて環境に敏感であるため、栽培は自生地の環境に近い地域では、比較的容易ですが、地域によっては非常に難しくなります。

☆ 栽培のポイント

1) 空気中の湿度が高いが、水はけがよく、地下部が加湿にならない風通しがよいところを選びます。

2) 葉焼けを防ぐため、梅雨以降、70%程度の遮光を行います。ただし、開花のためには6月まで十分、日光に当てる必要があります。

3) 肥料のやりすぎは避けましょう。

4) 生育初期は、ナメクジの防除に努めます。

4. 実用化に向けた取り組み

1) 西牟婁郡すさみ町佐本

実生による苗生産を本格化し、2000年3月にはキイジョウロウホトトギス生産組合(約50名)が発足して、切り花、鉢花の産品化に向けて栽培されています。また、資源を保護し、観光資源としての活用を図るため、町内の琴の滝荘周辺及び佐本地域に苗の植付け、生育適地を模索しています。

2) 熊野那智大社境内

資源を保護し、観光資源としての活用を図るため、1999年から順次、1、2年生苗を植付け、その生育を見守っています。

(育種部 宮本芳城)



図1 キイジョウロウホトトギス

和歌山県農林水産総合技術センター

暖地園芸センターニュース No.20

2002年1月20日発行

編集・発行 和歌山県農林水産総合技術センター

暖地園芸センター

〒644-0024 和歌山県御坊市塩屋町南塩屋724

TEL 0738-23-4005

FAX 0738-22-6903

(この印刷物は再生紙を使用しております)